

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(建築)2016年版、名古屋市長官公署環境政策推進部環境政策推進課環境政策推進室

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Live Casa 堀田計画 新築工事	階数	地上12F
建設地	名古屋市瑞穂区堀田通九丁目1-3,1-4,1-6,1-9,1-10,48,49-1番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	96 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年6月4日
敷地面積	585 m ²	作成者	
建築面積	347 m ²	確認日	2020年6月4日
延床面積	2,745 m ²	確認者	



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.8 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.8		
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	Q1のスコア= 3.1	Q2のスコア= 2.9	Q3のスコア= 2.2
LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	LR1のスコア= 2.5	LR2のスコア= 2.7	LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項	総合	
	名鉄堀田駅前に建つ、総戸数96戸の共同住宅(賃貸)と1階部分に物販店舗が計画された複合建物である。駅前という立地性を生かし、高容積な建物形状としながらも効果的に植樹を行うことで、周辺環境に潤いをもたらすよう配慮している。	その他
Q1 室内環境	大きな開口部を設けることで十分な採光を室内にもたらし、快適な住環境としている。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	高階高設定とすることで広々とした天井高さを確保している。また、建物を長期間利用できるような日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地帯を設けることで雨水が極力外部に流出しないように配慮した。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	熱橋部に断熱補強を施し、外皮性能を高めている。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	節水器具の採用により、環境負荷低減に寄与している。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	緑化ブロック舗装を施し、舗装面に緑を極力配した計画とすることで気温上昇の低減に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)Live Casa 堀田計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。